



竹内滋泰(自由クラブ)

新規就農者支援事業
について

問 国が進める新規就農者支援事業の市としての取り組みについて伺う。

答 青年就農給付金のうち準備型では、研修期間中に年間150万円を最長2年間、また、経営開始型では、年間150万円を最長5年間給付する。今後は、農業関係の情報を収集し、地域農業マスタープランを

作成したい。

新学習指導要領
について

問 新学習指導要領における伝統、文化、心の教育充実の取り組みについて伺う。

答 総合的な学習時間で塩づくりや古典芸能に親しむなど地元の伝統や文化に関する学習を行っている。また、福祉体験活動や地域ふれあい活動などを通して地域を愛する心を育てる取り組みを行っている。

鎌田篤司(自由クラブ)

探査船の母港化で
蒲郡港の活用を

問 メタンハイドレート探査船の蒲郡港母港化に対する市の考えは。

答 探査船の母港化をエネルギー庁長官に要望した。また、母港となるような形で、例えば研究施設で活用してもらえようように要望もした。何らかの形で蒲郡港を活用してもらいたい。



探査船の母港化を目指す蒲郡港

企業用地確保の
取り組みを

問 東日本大震災の影響から企業の臨海部への進出は進んでいない。山側の開発に費用がかかっても、

やっつけていくのだという覚悟が必要であると考えるが、市にその覚悟はあるのか。
答 人口増と働く場の確保が目的であり、市長として覚悟はある。企業用地の造成に当たり限度はあるので、具体的に変わったときには、議会に相談して進めたいと思っています。

新実祥悟(自由クラブ)

国道23号蒲郡バイパス
の早期全線開通を

問 一部の新聞等では今後5年間で全線開通という報道があったが、全線開通の見通しは、どのようか。

答 名四国道事務所から具体的な目標年次は聞いていない。市では、開通による交通渋滞の解消、騒音などの環境改善、観光客の増加や物流・経済活動の活性化に大いに期待している。1日も早い開通に向け、国



現在、完成に向け工事を進める国道23号

蒲郡港マイナス11メートル
岸壁完成後の利用は

問 水深11メートル岸壁完成後の蒲郡港の利用をどのように考えているのか。

答 総延長570メートル、水深11メートル岸壁の完成に向けて、西三河の工業生産地域の企業も含め、利用者の拡大と貨物取扱量の増加など岸壁の利用促進を図るため、ポートセールスに努めていく予定である。

青山義明(無所属の会)

上ノ郷城跡一帯の
整備を

問 城跡周辺にはトイレもなく、駐車場も少ない。また、城跡への道路も整備されていない。城跡の今後について伺う。

答 25年度中に(仮称)上ノ郷城跡整備計画策定委員会を発足させ、城跡整備の基本方針を中心に道路なども含めた整備計画をまとめることから、地元住民と話

とともに努力していく。